

知っていますか？

チームオレンジ



倉敷市認知症サポーター犬
笑(えみ)ちゃん



認知症は高齢になるほど増える可能性が高まること、また、65歳未満で発症する若年性認知症もあることから、誰もが発症する可能性があり、多くの人にとって身近なものになっています。

倉敷市では、認知症の人やご家族が住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けられるよう、『**認知症の人と共に生きる地域づくり**』を進めています。

認知症を、自分のこととして考えてみませんか？



令和6年1月に「共生社会の実現を推進するための**認知症基本法**」が施行されました。

この法律では、認知症の人の声を聞きながら、私たち一人一人が認知症を自分のこととして考えることを大切にしています。

認知症になっても、適切なサポートと、共に活動する仲間がいれば本人が持つ力を活かして、自分らしい暮らしを続けることができる

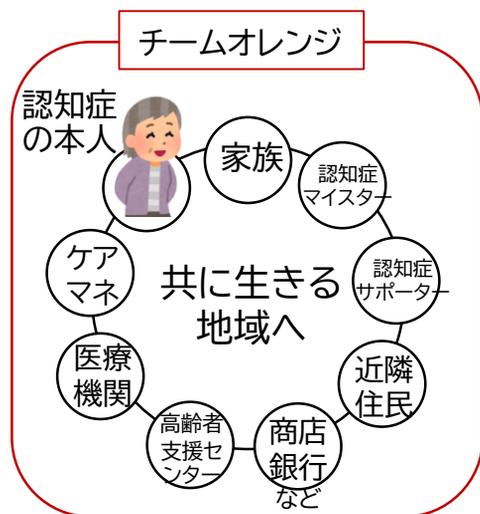


自分に医療・介護が必要になった場合に過ごす場所として、50%を超える人が「自宅」を希望しています。(倉敷市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果より)

認知症になっても住み慣れた自宅で過ごすためには、家族だけでなく、知人や近所の人、いつも利用するスーパーや銀行の従業員などの身近な人たちに認知症の理解が広がる必要があります。

倉敷市では、認知症になっても安心して暮らせる地域づくりの取組として『**チームオレンジ**』の活動支援に取り組んでいます。

詳しくは次ページへ

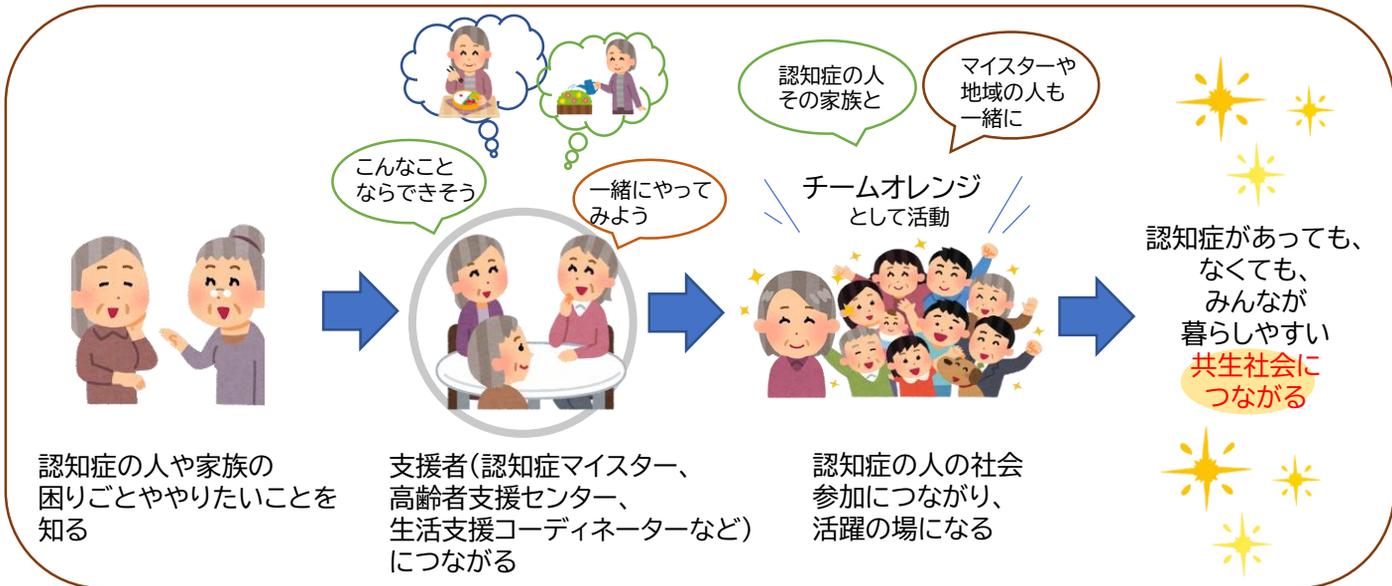


チームオレンジとは



認知症の人や家族の困りごとの解決や、やりたいことの実現に向けて、地域の支援者(認知症マイスター※)をはじめとする人たちと、認知症の人とその家族と一緒に集い、継続的に行う活動のことです。 ※認知症マイスターについてはP.4をご覧ください。

チームオレンジの活動を行う居場所のことをチームオレンジ拠点といいます。



チームオレンジではどんな活動をするの？



本人の興味があること:手芸

手芸を一緒に取り組む



自宅の空きスペースや車庫など、ちょっとしたスペースでも拠点になります！

本人の思い: 野菜づくりを続けたい

一緒に苗植えや収穫を楽しむ



本人のしたいことや興味などに合わせて内容を考えるため、活動は様々です

本人の思い: 話をしたい! 話を聞いて欲しい

本人や家族が 思いを話すことを大切にされた茶話会



本人の興味があること:料理

通いの場と連携して、本人が料理を作る役割が担えるよう、サポートする



本人の思い: 地域とつながっていたい

施設に入所した本人「たまには以前参加していた通いの場に行きたい」 本人と一緒に歩いて通いの場に参加



チームオレンジの活動を通して、「新しい認知症観」※が広がることを目指しています。

※認知症になってからも一人一人が個人としてできること・やりたいことがあり、住み慣れた地域で仲間等とつながりながら、希望を持って自分らしく暮らし続けることができるという考え方



チームオレンジ拠点での素敵なエピソードをご紹介します



エピソード①

喋りたい言葉がうまく出てこないBさん。
「もっと話をしたいのに、うまく喋れないから、最後まで話を聞いてもらえない」という思いがあった。

【認知症マイスターの思い】
認知症の症状により、言葉が喋りにくいのだろう。Bさんが**気兼ねなく喋れる場を作ろう!**



「自分の話をゆっくり、最後まで聞いてもらえる。」
チームオレンジ拠点に参加することで、安心しておしゃべりができた。
このことが自信になり、閉じこもらずに外に出て行こうと思えるようになった。

エピソード②

ご家族と一緒に参加しているAさん。
チームオレンジで作成した手芸品を企業のマルシェで販売することに。

【認知症マイスターの思い】
以前、小売店を営んでいた本人の得意を活かして、できる力を**引き出せるようサポート**したい!



Aさんが自分の得意を活かして商品紹介のポップを作成。

周りの人たちに認めてもらうことで自信につながった。

その後、**Aさんは自宅でコーヒーをいれる役割**ができ、家族と毎朝おいしいコーヒーを飲む幸せな時間ができた。

家族がAさんは何もできなくなるわけではないこと、Aさんのできることに気付くきっかけになった。



認知症になっても安心して参加できる場が地域に
どんどん広がっていくことが大切です。

※チームオレンジの活動に興味がある方は、次ページ下側の「地域包括ケア推進室」までお問合せください。

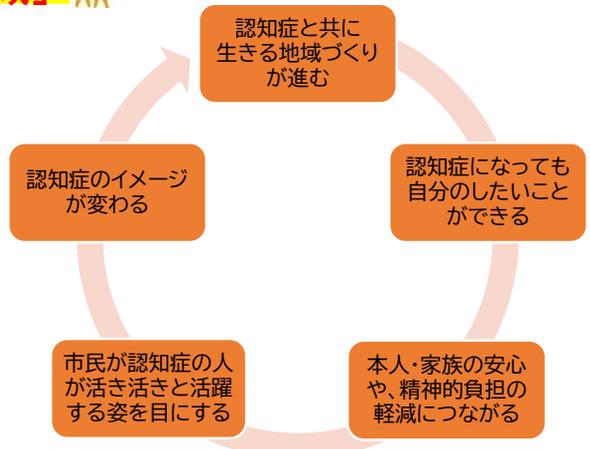
認知症になっても、
たくさんできること
がある



倉敷市が目指す「認知症と共に生きる地域」



- ・認知症の人がこれまでの生活の中での友人関係や地域とのつながりを持ち続け、自分の人生を大切に、安心して自分らしく生活できる地域
- ・家族もこれまでと同様に仕事や生活を営むことができる地域
- ・認知症であることを安心して伝え、共有することができ、周囲の人もそれを自然体で受け止めることができる地域



認知症マイスターをご存知ですか？



リサイクル適性(A)

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

認知症マイスターとは、地域における認知症の理解を深めるために「**地域支援の実践者**」として、活動を行うボランティアです。

倉敷市が行っている研修を受講すると認知症マイスターになることができます。



認知症マイスターの活動を紹介します



1. 認知症の人や家族が安心して出かけられる場(チームオレンジ拠点、認知症カフェ、通いの場など)の立ち上げや運営、協力。

チームオレンジ拠点 P.2をご覧ください。

認知症カフェ

認知症の人、家族、地域の人などが気軽に集まり交流する居場所です。

認知症の人や家族にとっては情報交換の場、

地域の人にとっては認知症の理解を深める場になっています。

市内で20か所以上のカフェがあります。詳しくはホームページをご覧ください。



カフェの一覧はこちらから▼



通いの場

住民同士が気軽に集い、「生きがいづくり」「仲間づくり」の輪を広げる活動です。サロン、カフェ、趣味の会など、呼び方は様々です。

認知症マイスターが参加している通いの場では、認知症になっても参加し続けられる居場所を目指しています。



通いの場の一覧や活動紹介などをまとめた冊子はこちらから▼



2. 認知症についての理解や関わり方を地域の人に伝えたり、地域の中で認知症の人や家族を **見守り**、時には相談相手になる。



ご近所などでお困りの方を見かけた時に、さりげなく声をかけるなど、一人一人が自分にできることをすることで、認知症と共に生きる地域につながります。

認知症について知りたい！と思った方は…



「認知症サポーター養成講座」を実施しています。

認知症の症状、接し方などについて学ぶことができます。

講座に興味がある方は、お住まいの圏域を担当する高齢者支援センターもしくは、倉敷市地域包括ケア推進室までお問合せください。

認知症サポーターキャラバン
マスコット
ロボ隊長▶



倉敷市認知症サポーター犬
笑(えみ)ちゃん

高齢者支援センター
一覧はこちらから▼

